

第4次安城市生涯学習推進計画 第3回策定委員会 議事概要

日 時：令和2年9月15日（火）午前9時30分から
場 所：へきしんギャラクシープラザ 講座室

<委員出席者> 15名

【委員長】 近藤 金光（社会教育委員）
【副委員長】 黒柳 厚子（社会教育委員）
【委員】 稲垣 英雄（社会教育委員） 榊原 重幸（社会教育委員）
三井 信子（社会教育委員） 小寺 陽子（社会教育委員）
柳澤 義雄（社会教育委員） 早川 一雄（社会教育委員）
塚原 和江（社会教育委員） 瀬戸井 明人（社会教育委員）
神谷 浩（社会教育委員） 小島 英樹（公募市民）
岩月 江美（公募市民） 小森 義史（公募市民）
矢羽々 みどり（公募市民）

<アドバイザー>

益川 浩一（岐阜大学地域協学センター）

<事務局等出席者> 6名

原田 敬章（生涯学習部 生涯学習課 課長）
神谷 高典（生涯学習部 生涯学習課 生涯学習係 係長）
天野 信治（生涯学習部 生涯学習課 生涯学習係 専門主査）
鳥居 有香（生涯学習部 生涯学習課 生涯学習係 主査）
太田 菜月（生涯学習部 生涯学習課 生涯学習係 主事）
押谷 茂敏（一般社団法人 地域問題研究所）

<次第>

市民憲章唱和

1. 議題

- (1) 作業部会の経過について
- (2) 計画案（第1章、第2章部分について）
- (3) eモニターアンケートについて

2. その他

<配布資料>

- ・ 次第
- ・ 第4次安城市生涯学習推進計画策定委員会名簿
- ・ 安城市生涯学習推進計画策定委員会規則
- ・ 資料1：第4次安城市生涯学習推進計画策定作業部会の実施概要
- ・ 資料2：第4次安城市生涯学習推進計画素案（序、第1章、第2章）
- ・ 資料3：eモニターアンケート「生涯学習について」（案）

<議事概要>

1. 議題

(1) 作業部会の経過について

《説明》地域問題研究所

【資料】第4次安城市生涯学習推進計画策定作業部会の実施概要

《協議》

【委員】

- ・先日の部会で、第3次安城市生涯学習推進計画 事業評価分析シートをいただいた。疑問点があって追加質問させていただき回答してもらったが、「f. 施策・事業の実施状況」や「g. 成果と課題」などの記載内容が不十分だと思います。特に課題の深掘りが不十分ではないかと思っています。要は、PDCAが十分に回っていないということです。
- ・他の審議会でも実績報告書がありますので、参考までに3点お持ちしました。1つは市民協働推進計画、2つめは男女共同参画プラン、3つめは行政改革審議会の実績報告書です。これらを見ていただき、この程度の深掘りをしていただけないかと思っています。深掘りができていない中で、新たな施策を並べてみても第3次の結果の繰り返しになるのではないかと思います。
- ・また、計画策定が終わった後のフォローは社会教育審議会が行っていますが、公募委員がゼロなので深掘りできないのではないかと危惧しています。フォローアップの部分にも公募委員を入れていただくのがよいのではないのでしょうか。
- ・パブコメで、第3次の計画は大変よくできた計画だと申しあげましたが、「2-(1)-2. 生涯学習ボランティアセンターの充実」、「2-(1)-4. 生涯学習市民ネットワークの設置」、「2-(1)-5. 地域主体による公民館活動」などは期待したのですが、実績がまったく上がっていないのではないかと思います。第3次の計画も深掘りの分析がされていないと感じます。いくら立派な計画を立てても、それが実行可能な計画でなければ、出来なかったという結果になります。
- ・作業部会について、深掘りが十分されず、課題に対する施策についての合意ができていない中で、新たに第4次の計画を立てる作業部会には疑問があります。

【委員】

- ・eモニターアンケートについて、内容が限定的だと思います。市民の生涯学習には、老人クラブの活動、野菜づくり、散歩、さらに神楽の練習など幅広いものがあるので、市民が行っている活動をつかむようなアンケートをやっていただきたいと思います。
- ・生涯学習の活動を行っている施設についても市の施設だけでなく、町内会や神社などもあるでしょうから、それらを含めて考えることで市全体のベースをつかむことができるとと思いますが、アンケートでは初めから市の活動が載せてあり“狭さ”を感じています。これらについて、先に質問をさせていただきましたが、ご回答いただけますでしょうか。
- ・生涯学習は生きがいに関わるものだと思います。人それぞれ生きがいは違うと思

ますが、それぞれの生きがいに到達できるような生涯学習計画であるべきで、皆を元気にし、パワーのある計画にすべきだと思います。これらについて、ご回答いただけますでしょうか。

【委員長】

- ・ご質問の回答は最後にさせていただきますが、先ほどの経過については、ご了承という形にさせていただきます。次に進めさせていただきます。

【委員】

- ・質問に対する回答もなく、了承というのはおかしいのではないですか。

【委員長】

- ・申し訳ありませんが、時間がないので、説明だけ先にさせていただきます。

【委員】

- ・今の事は議事録に残してください。

【委員長】

- ・もちろん、重要な内容なので議事録には残します。
- ・(事務局に対し) 質問の回答は最後にできますか。

【事務局】

- ・時間がなければ、後日、回答となります。

【委員長】

- ・文書ですか。

【事務局】

- ・はい。

【委員長】

- ・この時間、全てに回答できないことをご了承願うことになるかもしれません。

【委員】

- ・時間がないということで切られると困りますので、追加で2点発言させてください。
- ・策定委員会の情報公開について、この策定委員会については議事録が公開となっていますが、市のホームページにも議事録が掲載されていません。公開とされているにも関わらず、公開されていないのであれば、非公開に修正していただきたい。
- ・私はスポーツ推進審議会にも出席させていただいていますが、そこでは、教育長さん、生涯学習部長さんも出席されています。今日、この策定委員会には教育長さんも生涯学習部長さんも出席されていません。作業部会には生涯学習課長さんは出席されていますでしょうか。確認させてください。また、スポーツ推進審議会とこの策定委員会の差は何なのかということをご確認できればと思います。
- ・以上5点について、今日、ご回答いただかなくても資料でも構いませんが、公開はしてください。

(2) 計画案(第1章、第2章部分について)

《説明》地域問題研究所

【資料】第4次安城市生涯学習推進計画素案(序、第1章、第2章)

《協議》

【委員】

- ・(資料2：20ページ) 主要課題として5点あります。「主要課題5」は新たな課題なのでよいのですが、主要課題の1から4については、分析シートの課題欄になければいけません。(資料2：4ページ) 本来は、「安城市の生涯学習の現状」または第3次の課題から主要課題の4つが出てこなければいけないはずですが、結びついていなければいけません。この課題が本当に正しいのかが分からないので、現時点では承認できません。第3次の課題から、これら4つの主要課題にどのように結びついたか、関連性を説明してください。
- ・総合計画や前回の生涯学習計画はPDCAを回すということが、安城市の行政運営の基本になっています。結びつきができていないということは、PDCAが正しく回っていないということであり、行政運営が正しく回っていないということになります。この部分を説明していただきたい。
- ・会議に先立ち、資料を事前に出していただき、それを読んで予め質問事項を事務局に投げ、事務局は当日、それらの質問に対する回答書を用意するというにしないと、委員会は説明だけで終わってしまいます。そうでなければ、委員を集めて行う意味がありません。策定委員会は議論をする場で、そこから正しい結果を導き出し、その結果として承認するのが策定委員会の役割だと思います。資料は、事前に配っていただき、疑問点は全て吸い上げた上で委員会を開いて欲しい。

【委員】

- ・(資料2：27ページ)「向こう5年間の推進テーマ」に「⑤場所や時間の制約を受けないオンラインも組み合わせた生涯学習」とありますが、とてもよいことだと思いますが、やり方が分かりません。市民の皆さんがオンラインを使えるようにシステム作りを進めていただきたい。
- ・(資料2：26ページ) 基本目標について、具体的な中身が知りたい。一言で実施したとしても、100名の希望者の内、抽選で20名だけだったり、ある地域ではやったが別の地域ではやっていなかったりと、一部だけでは市民のニーズに応えたことにはならないので、広がりが必要だと思います。年に何回やったということは数字の上では実績ですが、本当のニーズに応えるには、応募者の人数を把握した上でその人数に対して応えているかどうかだと思います。
- ・会議の資料は事前に配っていただきたい。予め資料を読んでいけば説明も分かりやすいと思います。また、会議が終了した後、感想を求めれば、より深みのある会議となるのではないのでしょうか。

【委員】

- ・このプランを5年掛けて行うのは、安城市の良質な市民を育てるためだと思っています。次世代が豊かにのびのびと生きていけることが安城市のテーマに沿っていると思うので、そのことをきちんと押さえて生涯学習を考えていかなければいけません。学習については、世代によってかなりギャップがあります。例えば、公民館を見ると高齢世代がほとんどで若い世代がいません。複合的に見ないと漏れてしまう人が出るのではないのでしょうか。また、良質な市民をどのように育てるかを考えていないと、目先のことにばかりに気を取られ、数の論理に流れていくことは非常に危険なことだと思います。深掘りをしないといけない難しい課題だと思います。

- ・「達成」ということについて、達成しましたといっても、周囲の目からは達成していないということがあります。達成は誰が決めているのでしょうか。
- ・この策定委員会は承認を受けるためだけの委員会ではないと思います。説明しただけで承認してくださいではよくありません。よく考えていただき、よりよいプランの実行に向けて、この委員会が進めばよいと思います。

【委員長】

- ・(町内) 公民館は81館あり、多種多様な活動をやっています。私のところの公民館はいろいろなことをやっており、大変忙しいのですが、何もやっていない公民館もあります。そういったことを是正するため、来年度からは各町内会に計画書を出してもらいます。それを確認して補助金を回してもらいたいと考えています。

【委員】

- ・議長というものは、委員の意見を公平に引き出さなくてはいけないのであり、委員から誰も意見がない時、活発な意見がない時には議長が自らの意見を発表するべきで、今回のように会議の時間があまりないということであれば、議長は意見を控えるべきだと思います。議長が議長の役割を果たさずに自分の意見を述べるのは正しくないと思います。

【委員長】

- ・皆さん方は実情が分かっていないと思うからです。

【委員】

- ・一人の委員として意見を発表してもらうことは構わないので、議長を代わってもらってはいかがですか。公平中立な立場で委員の意見を引き出すのが議長の役割だと思っていますので、議長としての役割を果たしてください。これは要望です。

【委員】

- ・公募で入られた委員は、これが中心ということかもしれませんが、全ての人がこのことだけのために来ているわけではありません。他のこともやっているのであって、公募の人だけの委員会ではありません。その時の状況を見ながら激論を交わすのはよいが、攻撃的な言葉は慎んでいただきたい。

【委員】

- ・我々委員は、7,500円の税金をもらってやっています。7,500円をもらっていても忙しいので、できませんというのは通りません。これは義務ではないので、そういった人は委員を降りていただくべきです。7,500円という公金をもらっているという認識は持っていただきたい。

【委員】

- ・意外な視点を提示させていただきます。継続が大事な場合と1回しかできないという視点をこの中に入れるのはいかがでしょうか。また、人々の価値はあまりにも広すぎてまとまりません。繋がりに関して、一人がよいという人もいるといった視点も頭の中に入れておく必要があります。現状と分析を4つ挙げ、主要課題を5つ挙げ、推進テーマが5つ、基本目標が3つ、施策の方針が大きく3つありますが、この関係をもう少し分かりやすくすべきだと思います。それぞれがどのように関わっていくのかを示さないと分かりにくいと思います。
- ・深く、狭くといったことについては、両面、必要だと思います。例えば、展覧会で

10万人来るとして、その100分の1でも底上げすれば、1,000人で相当な成果になる。一方、ワークショップを20人で100回やると2,000人対象となる。2つの考え方がありますが、両面、必要だと思います。方針を考える時、両面で考えることが必要だと思います。

【委員】

- ・策定委員は出てきた案に対して最終的に了承をするということでしょうか。また、それは多数決ですか、それとも全員一致なのでしょうか。

【事務局】

- ・基本的には多数決です。

【委員】

- ・(資料2:27ページ)「場所や時間の制約を受けないオンラインも組み合わせた生涯学習」について、これはコロナの影響で新たに追加されたのだと思いますが、私としては、コロナは1、2年で終息すると思っていますので、ここにこの推進テーマを入れるのはいかがなものかと思っています。アンケートではオンラインが必要という意見が出ているので、コロナは関係なく、オンラインは必要であるという方向にもっていったほうがよいのではないのでしょうか。
- ・(資料2:27、28ページ)基本理念があって推進テーマがありますが、これが次の基本目標に繋がっていないので、分かりづらいものになっています。推進テーマがこれで、基本目標がこうで、施策がこれだといったように一本で繋がっていれば、深掘りできると思います。

【委員】

- ・資料は事前に送っていただかないと説明会で終わってしまうので、できるだけ資料は事前に送っていただきたい。
- ・第4次の推進計画をつくる際、第3次の推進計画を全て見直すのは難しいと思います。100パーセントを目標にするのは無理なので、3歩進んで2歩下がっても進めるという姿勢が大事だと思います。

(3) eモニターアンケートについて

《説明》地域問題研究所

【資料】eモニターアンケート「生涯学習について」(案)

《協議》

【委員】

- ・このアンケートはどのような形で実施されるのでしょうか。先回のアンケートでは性別、年齢を無視で回収率が非常に低かったのですが、低いアンケートでは意味がありません。50パーセント以上の回収率でないと、分析は難しいのではないのでしょうか。アンケートの回収率を高め、市民の声をしっかり汲み上げるような工夫が必要だと思います。市民のアンケートに答える気持ちを掻き立てるような工夫も必要だと思います。

【委員】

- ・回答者はどのように抽出するのでしょうか。また、回収率を上げる工夫は必要だと

思います。

【事務局】

- ・ e モニターアンケートは市の e モニターの登録をいただいている方に回答していただきます。ある程度の偏りはあると思います。
- ・ 今回のアンケートは、男女、年齢の区分はありませんが、 e モニター登録の際の情報がありますので、分析は可能です。

【委員】

- ・ アンケートの中にその人の生きがい分かるような項目があれば、それをベースに策定の方向付けができるのではないのでしょうか。例えば、食べ歩きが好きだとか、麻雀が好きだとかといったそれぞれの生きがいを掘んだ上で、生涯学習計画を立てるのがよいと思います。

【委員】

- ・ コロナが終息した後でもオンラインを利用したい人がどのくらいいるのかを知るため、アンケートにその項目を増やして欲しいと思います。

【委員】

- ・ 私はオンラインには反対の立場で、実際に見て、物を触ったりすることが本来の姿だと思います。また、オンラインが使える人だけになってしまいます。オンラインがどんどん進んでしまうことはどうかと思っています。

【委員】

- ・ つながりということを意識すべきで、オンラインでどうつながっていくかもやるべきことだと思います。

【委員長】

- ・ 次に進めさせていただいてもよろしいでしょうか。

【事務局】

- ・ たくさんのご意見ありがとうございました。
- ・ まず、事前に資料をお送りしなかったことについて、お詫びをさせていただきます。次回からは事前に送付させていただきます。
- ・ 小森委員からいただきました社会教育審議会の社会教育委員に関しましては、令和4年度の改選から市民公募委員の募集を検討させていただいております。
- ・ 議事録に関しましては、数日中にアップさせていただきます。

【委員】

- ・ 議事録はアップする前に委員による確認をさせてください。

【事務局】

- ・ いただきましたご質問に関しては文章により、次回までに回答させていただきます。
- ・ 議事録についても確認のお願いをさせていただきます。

【益川先生】

- ・ 本来、審議会は内容について意見をいただくものですが、そもそも論で合意ができていないことや審議の進め方など、手続きについて検討していただく必要があると思います。
- ・ 今回はご説明いただき、資料もいただきましたので、皆さんが言いきれないことを次回までに出していただき、それを受けた形で提案をされるほうがよいと思

ますので、お手間かもしれませんが、やっていただきたいと思います。

- ・計画は第3次を踏襲しており、基本理念や方向性は変わっていないということです。方向性を正しいものとして進めていくということであれば、やり方をどのようにするのかについて、皆さんからご意見をいただければと思います。例えば、計画としてはよくできているが、マンパワーがないというご意見がありました。それならば、どのように連携してやっていくのか、生涯学習課単体でやるのが難しいのか、主要課題の中にもものづくりや若者が入っていますが、それならば、企業と連携するのか、役割分担はどうするのかといったといった具体的なやり方の部分を考える必要があると感じました。
- ・こういった現状でこういった課題があるといった流れが分かりづらいということがありました。どのように関わっていくのか、どのように確定していくのかといった中身の構造がはっきりすると、この計画はすっきりしてくるのではないのでしょうか。作業部会が3段論法的に発展してくるとのご意見がありました。そういったものが流れというか、系統性ではないかと思います。流れや方向性を考えながら進めると審議でも分かりやすくなるのではないのでしょうか。
- ・評価の部分で、PDCAのお話しもありましたが、評価は大事で目標に対して評価すべきで、行政的には目の前の数字にとらわれがちですが、バランスが必要です。死亡者数や講座開設数などはアウトプット評価で、人や地域がどのように変化したのかなどはアウトカム評価と言います。行政的には税金を掛けてやっているの、数値目標的なアウトプット評価が大事ですが、アウトカム評価を加味できれば素晴らしいものになります。目の前の数値に右往左往されるのではなく、要素として、アウトカム評価の視点も必要だと思います。
- ・連携ということにも絡みますが、行政として生涯学習をどのように推進していくかといったスタンスも考えるべきだと思います。生涯学習の敷居を低くしていくといった方向性なので、行政の側から学習の機会を用意して、皆さんに提供することが方向性としては必要です。行政のもう一つのスタンスとして、自主的な活動に対して市として、支援をするといった方向性も内容として入ってくるとよいのではないのでしょうか。
- ・個人的意見として、ウィズコロナ、アフターコロナの観点では、未曾有の事態なので入れてもよいと思っています。この時期だけで終わる可能性もあり、計画は5か年ということもありますが、今回の事態は今までとは違う部分がありますので、入れてもよいのではないかと思います。
- ・つながりやオンラインといったお話しもありましたが、つながりは精神的つながりもありますので、この事態の中、対面とオンラインの両方でやっていくことは必要だと感じました。ハイブリッドでやっていくことは必要ではないのでしょうか。
- ・皆さんが真剣に考えておられることが感じられました。是非、内容についての議論をしていただきたいと思います。

2. その他

《説明》事務局：次回の開催について

以上